

平成28年度の教育ボランティア活動が本格的にスタートして約2か月が経過しました。今年度は、のべ190人の学生が活動に参加しています。活動先は甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町、韮崎市、北杜市、笛吹市、富士川町等々多くの市や町にわたっています。また、受入先も年々増加し、小中学校を中心に、幼稚園、子ども図書室、養護施設、福祉施設、県教委等26か所となっています。

その中から、今回は、昭和町立常永小学校（校長小林治夫先生）を訪問してきました。その折の、学生の活動の様子や担当の先生方のお話などを紹介します。

## 昭和町立常永小学校・・・6月30日（木）訪問



### 《 生活社会教育コース 4年 鈴木大樹さんの活動 》

- ・毎週木曜日の午前中、ボランティア活動を行っています。
- ・朝、職員室で教頭先生や教務主任の先生から指示を受けて、担当する学級に入ります。
- ・主に特別支援学級(知的)や4年生の学級に入り、個別に学習指導をしたり、特別な支援が必要な児童に声掛けや支援をしたりと、担任の先生方の補助をしています。この日は、6年2組雨宮宏幸先生のクラスに入り、算数の授業のT2として補助的指導を行いました。
- ・休み時間は子どもたちと遊び、交流を図っています。

今年度、昭和町教育委員会に登録し活動している学生は、17人います。このうち常永小学校で活動しているのは、鈴木さんのほかに、幼小発達教育コース4年川崎さん、言語教育コース4年黒瀬貴広さんの合計3人です。

### 教育ボランティア活動から学んだこと・気づいたこと

鈴木大樹

- ・教育ボランティアは、大学の講義だけでは手に入れることのできない教育現場での実践力を身に付けることができる機会であること。
- ・様々な先生方の授業の様子や学級風景に立ち会うことにより、先生方のやり方にヒントをもらいつつ数年後自身自身が教育現場に立つときの構想が立てやすくなる。
- ・教育実習の3週間では見ることのできなかつた長期的な子どもの成長に立ち会うことができ、教師としてのやりがいを一層感じることができる。
- ・生徒指導と学習指導は独立しているのではなく2つをつなげることが大切であり、これがうまくいくと学級のまとまりや雰囲気よくなる。

※教育ボランティアを3年の後期から始めましたが、本当にやってよかったと思っています。私が通う常永小学校では、先生方や子どもたちが本当にあたたかく迎えてくださり楽しく学ぶことができています。また、日常の学校生活に加えて、卒業式等の行事にも参加させていただき、様々な教育の現場にふれることで自分自身の教師に向かう気持ちが何より強くなりました。このたくさんの学び・経験を将来に活かしていきたいと強く思います。

### ボランティア担当 深澤秀興教頭先生の話

鈴木さんは、昨年からは活動してくれています。常永小学校では最初の学生ボランティアです。昨年度は半年間、全学年に関わって熱心に活動してくれました。そのため今年度は、児童をよく理解し、教職員ともうまく連携をとりながら対応できています。子どもたちにもソフトに接してくれて、大変感謝しています。